

# 小沢一郎 事件年表

平成23年

検 察 の 動 き

裁 判 の 動 き

第 2 次 菅 内 閣

野 田 内 閣

22年1月20日から大阪地検より応援に呼ばれた前田元検事が大久保被告を取り調べて調書を作成。

1/20 第13回陸山会公判前整理 前田元検事が取り調べた大久保被告の調書証拠申請取り下げ

1/31 指定弁護士が小沢元代表を強制起訴

2/7 陸山会事件 初公判(裁判長:登石郁朗)

水谷建設からの裏金1億円が陸山会事件の土地購入資金の一部として使われたという検察の見たて。

4/27 陸山会の第10回公判で中堅ゼネコン「水谷建設」の川村尚・元社長(53)が証人として出廷。石川被告らに手渡したとされる小沢事務所への裏金計1億円について「衆院議員会館の小沢先生の部屋で大久保隆規被告(49)から要求され、その後、石川氏と大久保氏に16年10月と17年4月の2回に分けてお支払いした」などと証言、裏金の提供を明言した。

元社長が、交際女性のために私的流用したのではないかという元社長の側近もいる。

5/24 中堅ゼネコン「水谷建設」の水谷功元会長(66)が出廷、川村尚元社長(54)が「平成16年10月に石川さんに手渡した」と証言した現金5千万円について「私を手配したが、大久保さんに渡したと報告を受けていた」と述べた。受け渡しには、元専務を立ち会わせるつもりだったにもかかわらず、川村元社長が単独で石川被告に手渡したと証言しているため、経緯に「不明朗な点がある」と述べた。  
また、現金授受の現場となったホテルに川村元社長を送迎したとされる同社の元運転手も出廷。「その日に送った記憶はない。もっと後だった」と証言した。

10月15日の運転手の手帳には「12時10分 東京駅 迎え社長」とあり、これ以降の記載はなかった。

菅直人首相の後継代表を決める代表選挙を行った結果、5候補が立候補したが、いずれも過半数に達せず、野田佳彦財務相(54)、と海江田万里経済産業相(62)による決選投票となり、1回目2位(102票)の野田佳彦氏が215票を獲得し逆転選出された(1回目143票を獲得した海江田氏は177票に終わる)。

検察の主張を全面的に認める判決であった。水谷建設の社長証言による一億円の裏金の受け渡しを認めるなど(検察はこの贈収賄については立件していない)推認に基づく判決で「ミスター推認」のあだ名がついた。のちに登石裁判長の罷免を求めて、衆参の国会議員各10人と予備員各5人で構成される「裁判官訴追委員会」に平野元参議院議員らが訴追請求状を提出したが不訴追の決定により弾劾裁判には至らなかった。

9/26 陸山会判決(登石郁朗裁判長) 大久保隆規を禁錮3年(執行猶予5年)、石川知裕を禁錮2年(同3年)、池田光智を禁錮1年(同3年)の有罪判決。

9/27 石川被告らは判決を不服として東京高裁に控訴

8/29 民主党代表選挙  
9/2 野田内閣誕生、幹事長 輿石 東

その他、前田元検事は「水谷建設が提供を認めた5千万円以外の話を出せ」という捜査方針に対し、現場の検事らは「話は全然出ず、難しいと考えていて、だいぶ疲弊していた」と証言。「特捜部長らは妄想を抱いて夢を語っていた。小沢氏の立件に積極的だったのも特捜部長、主任検事、最高検検事の3人だけだった」と述べた。

12/15 石川被告の取り調べ官、田代検事の捜査報告書への虚偽記載が発覚

12/16 第10回公判で前田元検事が応援に行った捜査初日に主任検事から「この件は特捜部と小沢の全面戦争だ。小沢を挙げられなければ、(特捜部は)負けだ」と言われたと証言し「私が裁判官なら無罪判決を書く」と言い切った。

■ は「陸山会事件」裁判  
■ は小沢氏の「強制起訴」裁判